

# ΚΟΣΜΟΣ



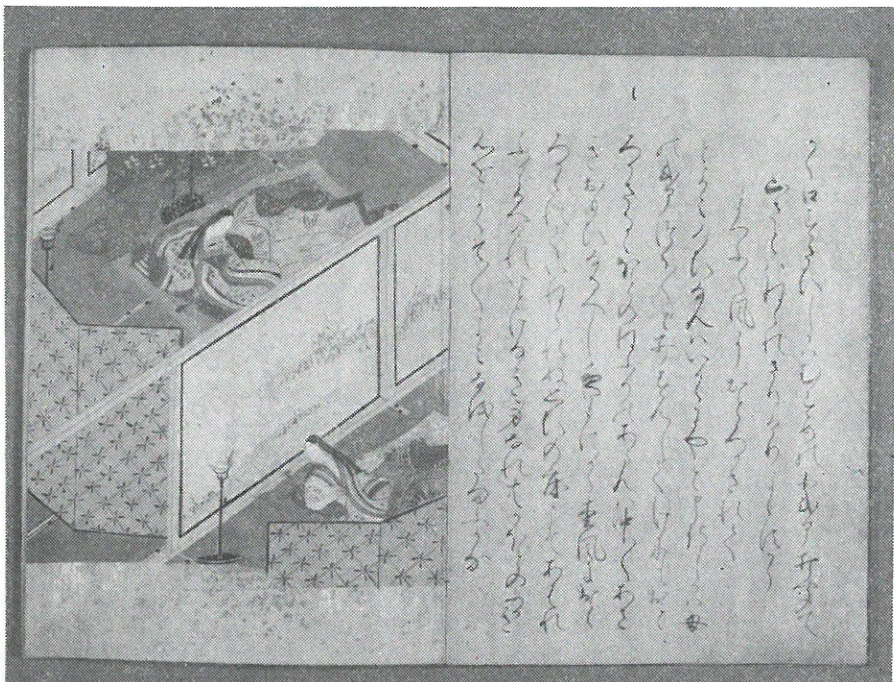
コスモス No. 78 1987 夏

## 創立100周年記念日本文学資料展開く

期間 9月21日(月)~26日(土)

東洋大学創立100周年記念行事の一つとして、本学図書館蔵の貴重書から日本文学関係を厳選して展示します。これ程の貴重書を一堂に展示するのは今回がはじめてです。ご期待下さい。

会場は丸善日本橋店 詳細は8ページを御覧下さい



展示が予定されている奈良絵本『小しきふ』(K913.49:K-6)の一部  
青畳に十二単のみやびな王朝絵巻の世界

貴重書から

猪苗代兼載

『小倉山庄色紙和歌註』

—万治三年書写本—

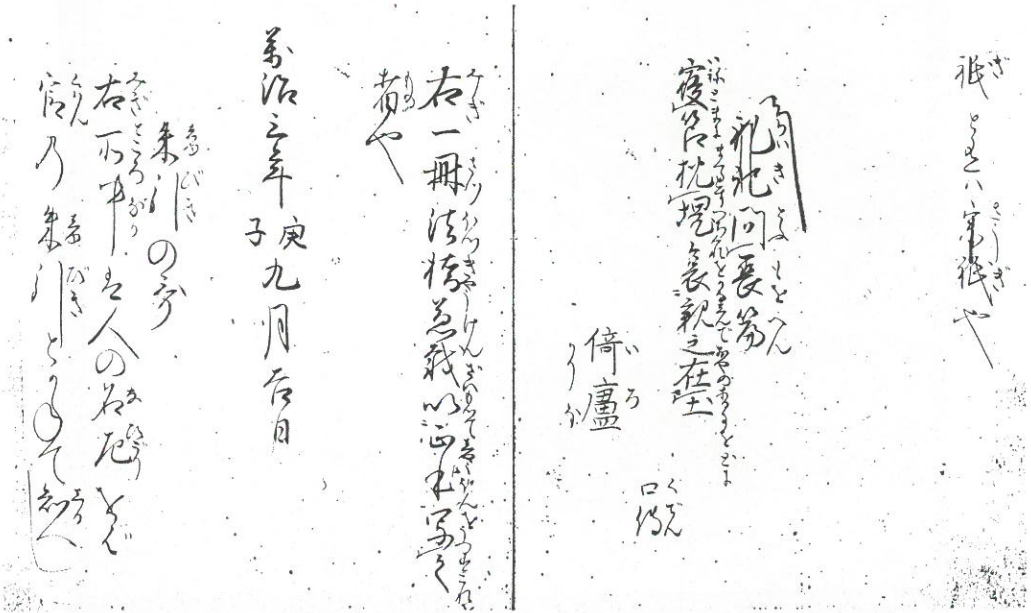
高城 功夫

『百人一首』は『小倉百人一首』『小倉山荘(庄)色紙和歌』とも呼称され、藤原定家が息為家の舅宇都宮入道蓮生(藤原頼綱)の要請によって、蓮生の別荘嵯峨中院の障子(襖)に貼るため、上古の天智天皇から藤原家隆・同雅経といった同時代の歌人に至るまで、計百人の歌人の歌各一首を選び、自ら色紙形に揮毫したものが、そのもとである。定家の日記『明月記』文暦二(1235)年五月二十七日の条に詳しい。この折の色紙形の草稿として成書されたのが、百一首から成る秀歌選『百人秀歌』(宮内庁書陵部蔵本・志香須賀文庫蔵本)であると考えられている。但し『百人秀歌』には『百人一首』に見出されない、一条院皇后宮「よもすがら」、権中納言国信「春日野の」、源俊頼朝臣「山桜」、権中納言長方「紀の国の」の歌四首があり、反対に『百人一首』には撰歌されているが『百人秀歌』

には見出せない、俊頼「うかりける」、後鳥羽院「人もをし」、順徳院「ももしきや」の歌三首がある。また『百人秀歌』は、『百人一首』と比べて歌順序に大幅の異同があり、歌合形式の配列が重んじられている。『百人秀歌』が『百人一首』の草稿本であることは、冷泉家に伝流したことなどと考え合わせてほぼ確実なことである。『百人一首』の成立に関しては、定家真筆の「小倉色紙」の伝存しているものもあり、定家撰の『新勅撰集』との関係などから細かな点で諸説あるのが現況である。

『百人一首』の古注釈書は、奥書等の勘案から、応永十三(1406)年藤原(二条)満基奥書本百人一首抄(宮内庁書陵部蔵)、文明十(1478)年宗祇奥書本百人一首抄(書陵部蔵安永五年模写)、長享元(1487)年百人一首古注(吉田幸一博士蔵)、延徳二(1490)年宗祇奥書本百人一首抄(天理図書館蔵)、明応二(1493)年宗祇奥書本百人一首抄(元和寛永中刊古活字版)、明応五(1496)年宗祇奥書本百人一首抄(書陵部蔵)、享祿三(1530)年経厚奥書百人一首聞書(国会図書館蔵など)などがある。本学蔵『百人一首』の古注釈は、これら古注釈書と密接に関わる一本であって注目されるものである。

本学図書館蔵『小倉山庄色紙和歌註』(K911.147: I K)は、万治三(1650)年写、一冊本。縦21.3



—猪苗代兼載『小倉山庄色紙和歌註』万治三年書写奥書—

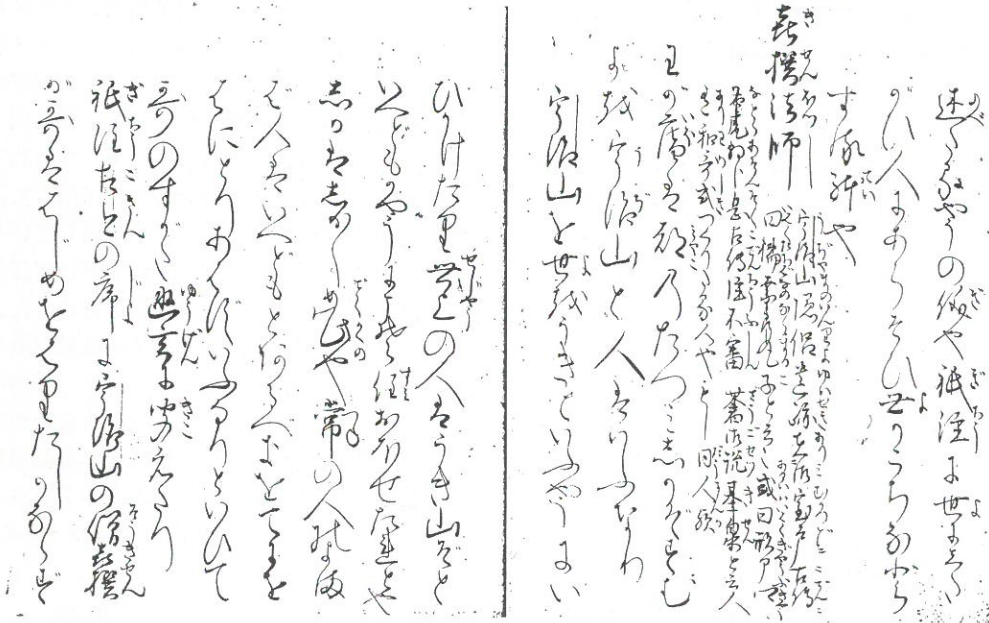
幅、横17.6幅、袋綴本。表紙は楮紙で朽葉色無地（後補）左側に縦長の題籤貼付痕跡（17.1×1.8）が認められるが剝落のため不明。内題もないので書名不明。題籤の剝落状況や『大日本歌書綜覧』の記載によって「小倉山庄色紙和歌註」であった可能性が高いので、そのように認めた。表紙見返し（後補）は、金箔を押した美本。本文料紙は楮紙で墨付110丁（但し、惜しむらくは、本書補修の際、三条右大臣の箇所と右大将道綱母の箇所に2丁の落丁が認められる）、蔵書印は、「東洋大学図書館蔵」の朱陽刻がある。最初に「百人一首題号の事」と記した序文がある。次に作者名を掲げ、勸物の類や系図などを掲げる。和歌は作者より一字下げ二行書きで、出典の勸撰集の詞書を和歌の前に記すものもある。注文は和歌より一字下げで、全体に漢字の読み仮名を付し、朱引・朱入りがあり、引用の場合は朱で「引」と記す。奥に（図版参照）「蒼と有は 称名院殿也／鳥と有は 鳥小路殿也／祇と有は 宗祇也／礼記問喪篇／寝笥枕塊衰親之在土／口伝／倚虚／右一冊法橋兼載以正本写之者也／万治三年庚子九月吉日／（以下朱引の説明・略）」とある。この奥によって、本書は連歌師猪苗代兼載（享徳元<1453>—永正七<1510>年）の正本を以って万治三年に書写したということがわかる。今日兼載自筆の注釈書の現存は確認されていないので、万

治三年の転写本ではあるが貴重である。しかも称名院（三条西公条・文明19<1487>—永禄6<1563>年）、鳥小路（鳥居小路<高階>経厚・文明8<1476>—天文13<1544>年）、宗祇（応永28<1421>—文亀2<1502>年）と、兼載と同時代人の注釈を引用（図版参照）（但し、経厚の注は作者勸物にのみであり、宗祇の注が割合多く、公条の注は僅かである）し、穏当な注釈であるが、「私」と記して独自の見解も多く見られる。宗祇の注を引いている点、二条家流の注釈に近く、奥に秘事口伝を記すのも二条家流の特徴といえる。

本書は、歌順序が通行本『百人一首』と比べると大幅に相違する。本書の歌順は『百人秀歌』の順序と合致する（但し、『百人秀歌』にある定子・国信・長方の歌はなく、俊頼の歌は「うかりける」になっている。巻末は後鳥羽・順徳院の歌が置かれてある。）。このことは、兼載が本書を著す時、通行本『百人一首』の順序に従わず、『百人秀歌』を見る機会を得、その順序に配列替えしたものと推測される。これは『百人秀歌』の享受としても注目される。従って本書は、二条家と冷泉家の流を汲む『百人一首』の注釈として著わされたことになり、貴重な古注釈書の一本であるといえる。

なお本書は、来る9月21日より26日まで日本橋丸善で開催される、東洋大学創立百周年記念「日本文学資料展」に展示される書である。

（文学部助教授 たかぎ・いさお）



—同左「喜撰法師」の条に「蒼御説」（勸物）・「祇注」などとある箇所—

# 特集 東洋大学と日本高等教育史

## 高等教育史において 果してきたこと

針生 清人

東洋大学は創立100年を迎える。近代的な大学は大学校本校及び分局の開設(明2, 1869年)に始まり、また国民教育の制度が「学制」頒布(明5, 1872年)に始まることからいっても、その100年という時間は決して短かくはない。哲学館(明20年)から私立哲学館大学(明37年)、私立東洋大学(明39年)と改称していたが、私立学校が正式に「大学」として認められるのは大正7(1918)年の「大学令」制定以降であり、大学昇格に際しては基本財産の国庫供託金五十万円、一学部増す毎に十万円という巨額を要したのである。東洋大学が「大学」となったのは昭和3年である。100年を迎える私大の歴史の前半は国家によって認められたものではなかったのであり、私学の歴史を考えると、国家の教育政策と制度の枠外に置かれていた意味を考えると重要であろう。大学校本校から東京大学と改称し、明治19(1886)年「帝国大学令」が公布されたが、京都帝大が新設される明治30年まで、大学というのは帝国大学ただ一校であった。その帝国大学は「国家ノ須要ニ応ズル學術技芸ヲ教授シ及其蘊奥ヲ攷究スルヲ以テ目的トス」と規定されるもので、大学の機能を国家目的に従属させ、学術研究を唯一つ存する帝国大学の目的に限定している。ここでの高等教育とは文官官僚養成機関を意味し、教育は国家の独占するところであった。そこには私立大学の存在する余地はなかったのである。帝国大学のみを大学とする帝国大学令公布の翌20年に哲学館は創立された。

その設立旨趣の要約は次の通りである。世運の開明を進めるのは教育にある。しかし哲学のような「高等ノ学問」は国家の独占するところであり、「当今哲学ヲ専修スルヲ得ルハ、独り帝国大学ニ限り、世間復タ之ヲ教ユルノ学校アルヲ聞カ」ぬところである。その帝大も文官登用のものであ

る。それ故「貧困ニシテ資力ニ乏キ者、洋語ニ通ゼズシテ原書ヲ解セザル者ニ至リテハ、未ダ曾テ此高尚ナル哲学ノ一斑ダニ窺ヒ知ル」ことができない。哲学館は国家の意図とは全く異なる視点に立って、体制の外に置かれた者のために開設されたのである。しかも極端な欧化主義に対して、「日本独立ノ精神基礎」を確立する「日本主義」と、あまねく宇宙間の真理を追究する「宇宙主義」とを目的として哲学諸科の教育をなそうとするものである。そして学生に期待したのは「其世ヲ益シ社会ヲ利スル」実践者たることであり、各人が「教育家宗教家哲學家」になることであった。そのためには中等教員検定試験免除の特典が必要であったが、哲学を主目的として開学した哲学館は、倫理の試験の巡視を受け所謂「哲学館事件」(明35, 1902年)によって教育の国家管理を強化する文部省と衝突する。これを機会に私学は一般に在野精神を失い体制の意図に適應せざるを得なくなるが、その要因は政府の大学政策にあったのである。大正7年の「大学令」で私学に対する国家統制は一段と強化された。「大学ハ国家ニ須要ナル學術ノ理論及応用ヲ教授シ、並其ノ蘊奥ヲ攷究スルヲ以テ目的トシ、兼テ人格ノ陶冶及国家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス」によって私学も国家的教育目的に束縛され、教育課程、教育形態は画一化されることになり、私学の独自性は失なわれていく。しかし、東洋大学は設立の旨趣に沿って、教育界、宗教界に進出する者を多く輩出している。また社会教育を重視し、世にさきがけて通信教育、公開講座、社会事業科等の設置となった。たとえば、社会事業と関連して起る新仏教運動の基本は社会の改善、自由討究、迷信排除、政治干渉の排除等にあるが、それは哲学館以来の精神であり、多くの出身者が参加したが、それも高等教育の国家が忘れた部分を担って来たものである。

(文学部教授 はりう・きよと)

# — 文 献 ガ イ ド —

## 大学史一覽

### 〔凡 例〕

- ・原則として、各大学が編集した、いわゆる「正史」を中心しました。例外は「鎌倉アカデミア」と「東亜同文書院大学」(いずれも廃校)です。
- ・このリストにない大学史については、図書館の分類カードの「377.2」以下を参照して下さい。
- ・〔 〕内は(白)白山図書館、(工)工学部分館、(朝)朝霞分館の請求記号です。
- ・大学史の文献目録として次の2点があります。
  1. 「本邦大学・高等教育機関沿革史目録」中村博男編刊 1978 [(白)377.021:NH]
  2. 「日本における大学沿革史」東京女子大学附属比較文化研究所 1978 [(白)029.6:T-10:1-5]

### 東洋大学史および井上円了関係資料

- ・東洋大学創立五十年史 昭和12 [(白)・(工)092:T, (朝)092:T:2]
- ・東洋大学八十年史 昭和42 [(白)(工)092:T:2, (朝)092:T]
- ・伝円了 平野威馬雄著 草風社 昭和49 [(白)(朝)(工)092.81:HI]
- ・学祖井上円了博士と東洋大学学術研究の一斑 柳井正夫編著 中外日報社関東総局 昭和34 [(白)092.1:YM]
- ・学祖井上円了先生略伝・語録 中川理吉編 京北学園 昭和22 [(白)092.81:NR]
- ・井上円了関係文献年表 東洋大学井上円了研究会 第三部会 昭和62 [(白)・(朝)・(工)とも整理中]
- ・井上円了研究;資料集 東洋大学井上円了研究会 第三部会 昭和56 [(白)092.81:T-3, (朝)092.81:T (工)E092.81:T]
- ・井上円了の思想 小倉竹治著 校倉書房 1986 [(白)整理中]
- ・井上円了先生 三輪政一編 東洋大学校友会 大正8 [(白)092.81:IE]
- ・「井上円了先生の書」遺墨集とその研究 第1~2集 吉田幸一他編著「井上円了先生の書」研究グループ 昭和56,59 [(白)(朝)(工)092.81:I]
- ・明治仏教の思潮 宮本正尊著 校成出版 昭和50

[(白)(朝)181.021:MS]

- ・東洋大学と学祖井上先生 東洋大学学友会雑誌部 昭和8 [(白)092:T-4]
- ・井上円了研究(雑誌) 東洋大学井上円了研究会 第三部会 昭和56~61 [(白)Z未分類, (朝)未分類, (工)E092.81:T-2]

### それぞれの私立大学史

- ・青山学院九十年史 昭和40 [(白)377.21:A-2:3]
- ・中央大学七十年史 昭和30 [(白)377.21:C:3]
- ・同志社百年史 1979 [(白)377.21:D-3]
- ・法政大学百年史 昭和55 [(白)377.21:H:2]
- ・上智大学五十年史 昭和38 [(白)377.21:J]
- ・鎌倉アカデミア断章 高瀬善夫著 毎日新聞社 昭和55 [(白)377.2137:TY]
- ・関西大学七十年史 昭和31 [(白)377.21:K-14:3]
- ・関西学院七十年史 1959 [(白)377.21:K]
- ・慶応義塾百年史 昭和33~44 [(白)377.21:K-2:2]
- ・神戸女学院百年史 昭和51~56 [(白)377.21:K-17]
- ・国学院大学百年小史 昭和57 [(白)377.21:K-5:5]
- ・駒沢大学八十年史 昭和37 [(白)377.21:K-3]
- ・甲南学園の60年 昭和54 [(白)377.21:K-23]
- ・明治大学百年史 昭和61から刊行中 [(白)377.21:M:3]
- ・明治学院百年史 昭和52 [(白)377.2:M-2]
- ・桃山学院90年史 1974 [(白)377.2:M-3]
- ・二松学舎九十年史 昭和42 [(白)377.21:N-5]
- ・立教学院百年史 1974 [(白)377.21:R-5:2]
- ・龍谷大学三百年史 昭和14 [(白)377.21:R-2:2]
- ・成城学園六十年 昭和52 [(白)377.21:S-5]
- ・成蹊学園六十年史 昭和48 [(白)377.21:S:2]
- ・専修大学百年史 昭和56 [(白)377.21:S-2:3]
- ・大正大学五十年略史 昭和51 [(白)377.21:T-6]
- ・拓殖大学八十年史 昭和55 [(白)377.21:T-17]
- ・東亜同文書院大学史 滬友会 昭和57 [(白)377.22:K]
- ・早稲田大学百年史 昭和53~56 [(白)377.21:W-6]

〔注〕このリストは大学史のほんの一部にすぎません。詳しくは、カード目録をひくか、カウンターにおたずねください。

## なるほど ザ・ハイテク (4)

### 暗号 (Cryptography) について

河野 隆二

暗号と聞いて何をイメージするかという質問に対して、スパイとか何か暗いイメージをもつ人が多いであろう。外交や軍事に使われ、その実態が秘密のベールに包まれていたからである。

ところが最近、事情ががらっと変わった。コンピュータや通信の商業システムにおける情報保護の手段として、今や暗号は大いに注目を浴びているのである。暗やみの中にあつた暗号の研究も、日の当たる場所で議論されるようになってきた。

最近のC&Cすなわち、コンピュータとコミュニケーションの急速な発展と融合により、私達の社会生活においても家庭に居ながらショッピングや銀行手続きができるホームコンピュータシステムや国民の電話番号から納税状況などの情報を記録し目的に応じて遠隔地からでもコンピュータで検索できるデータベースシステムなどに見られる現代の高度情報化社会が成り立っている。こうしたシステムは、正当な利用者にとって非常に便利であるが、一方では事故や犯罪により個人のプライバシーや資産に被害を及ぼす可能性がある。C&C技術による高度情報化の恩恵だけを得て情報保護を実現するハイテク技術として、暗号に対する社会的ニーズが高まり、暗号理論を中心とするソフトウェアとハードウェア技術が学会においても活発に研究されている。

暗号の歴史は極めて古く、その起源を約4000年前の象形文字に求められるほどである。良く知られる簡単なものでは、シーザーが用いた換字暗号がある。これはそれぞれの文字を普通のアルファベットで一定の文字だけ後の文字と置き換えるものである。この場合、アルファベットをずらす数が鍵となる。一般にこの種の古典的な暗号は自然言語のもつ規則性や統計的性質からコンピュータを用いたしらみつぶしの攻撃により鍵がなくても

解読できる。暗号の歴史は強力な暗号アルゴリズムの開発とそれに対抗する暗号破りとの戦いの歴史でもある。

では、どこがハイテクであり学問的に興味深いかというと、暗号の強度が情報源のもつエントロピー（平均の情報量）と密接に関係があるからである。つまり、先に述べたように文字の頻度が一律に分布していないから暗号が破れるのである。そして、その基礎となる学問は現代の高速高エネルギー信頼性を満たす通信や記録の方式を生み出す情報理論であり、高度情報通信網の構築には、暗号システムを含めた統一的な設計が望まれる。

暗号がコンピュータや通信関係の学会で話題的となったのは、わずか10年程前からである。最近の暗号ブームを引き起こした要因として3つのトピックスがある。①米商務省標準局が標準暗号方式（DES）を定め運用をはじめたこと、②スタンフォード大学が画期的な暗号方式を編み出したこと、③IBMが通信やファイル保護に本格的な暗号システムを発表したことである。

中でも②の公開鍵暗号方式は現代の暗号研究の原点であり、学会で白熱した議論が行なわれている。従来方式では送受信者は暗号化と復号化に用いる共通の鍵を持たねばならず、5人のユーザから成るネットワークでは、各ユーザは自分以外との4組の鍵をそれぞれ管理する必要がある。このため、ユーザ数の増加に伴い鍵の管理や配送が問題となる。一方、公開鍵暗号方式は、暗号化の鍵と復号化の鍵として異なるものをペアとして作り、暗号化の鍵から復号化の鍵を割り出せないようにしたものである。暗号化の鍵を電話帳のように公開することにより、各ユーザの管理すべき鍵の数を減らすことができる。この方式のもう一つの利点は、手紙のサインや印鑑のように電子メールのような通信において誰が送ったものかを認証（ID）できることである。

このように、ファクシミリやコンピュータ間のデータ通信、自動車電話や携帯電話などの通信網において情報の暗号化による保護と同時に送受信

者のIDを保証する技術は、コンピュータ犯罪やプライバシー保護の上で高度情報化社会に不可欠なハイテク技術であり、今後一層その重要性が高まるであろう。

—文献ガイド—

- 1) 暗号の数理 一松信著 講談社 1980
- 2) 連載：基礎暗号学 加藤正隆著 数理科学 178 (1978—04)—225 (1982—03)
- 3) 特集：情報セキュリティ 小山謙二著 情報処理, Vol. 25, No. 4 No. 1984
- 4) 暗号 長田順行 ダイアモンド社 1979
- 5) An overview of computational complexity. S. A. Cook ACM, 26, 6 pp. 401—408, 1983
- 6) Communication theory of security system. C. E. Shannon Bell Syst. Tech. J., 28 pp. 656—715, 1949
- 7) 鍵なしではまず解けなくなった最近の暗号方式 田中善一郎 日経エレクトロニクス 1978年9月4日 pp. 68—103
- 8) 暗号パズル 長田順行 実日新書, 実業之日本社 1984
- 9) 暗号の天才 新庄哲夫 新潮選書 1981
- 10) 情報戦に完敗した日本—陸軍暗号‘神話’の崩壊 岩島久夫 原書店 1978
- 11) 暗号のアルゴリズム 岩垂好裕 電子情報通信学会誌, vol. 69, No. 4 pp. 364—369 1986
- 12) 公開鍵暗号系の安全性 1—2 藤原良 数理科学, No. 249—250 1984
- 13) 認証とデジタル署名 小山謙二 情報処理 24巻 7号 pp. 853—861 1983
- 14) デジタル署名と暗号鍵管理 小山謙二 情報処理 25巻 6号 pp. 554—560 1984
- 15) 現代暗号理論 池野, 小山共著 電子通信学会 1986
- 16) 秘話技術, 赤岩芳彦 電子通信学会誌 65巻 8号 pp. 832—834 1982
- 17) 暗号処理ハードウェア 秋山, 八星共著 情報処理 25巻 6号 1984
- 18) コンピュータ犯罪に対する暗号の有効性を探る 田中善一郎 日経エレクトロニクス pp. 117—136 1982
- 19) 暗号化法の最近の話題 嵩, 山村 電子通信学会誌 63巻 5号 pp. 460—467 1980
- 20) 情報セキュリティ 宮川洋 昭和59年電気四学会連合大会, No. 5 pp. 5-1~5-28 1984

- 21) 暗号技術 今井, 松本共著 テレビジョン学会誌 vol. 39, No. 12 pp. 1140—1147 1985 (工学部助教授 こうの・りゅうじ)

哲学館出身者著作案内(その2)

凡 例

1. 出身者の配列は五十音順とした。
2. 人物ごとに氏名, 卒業年次・称号, 生没年, 専門分野・職分, 著作の順に示した。
3. 号, 通称等を氏名の後に付した。
4. 書名の後に出版社, 出版年, 白山図書館の請求記号を( )で記した。

**富田敦純** 明治29宗教, 大正7講師号 明治8—昭和30 真言宗豊山派僧侶, 同派管長。秘密辞林(加持世界支社, 明治44, 188.5:TJ) 密教百話(世相軒, 大正14, 188.5:TJ:2) 興教大師全集(世相軒, 昭和10, 188.5:K) 日本宗教新史(宝仙寺, 昭和32, 160.21:TJ)

**西山哲治** 明治43得業, 大正7講師号(明治38) 明治16—昭和14 教育家。現代教育の新潮と実際(教育実践社, 昭和6, 372:NT) 生活中心新教育の建設過程(新生閣, 昭和8, 370.4:NT-3) 私立帝国小学校経営二十五年(モナス, 昭和12, 372.1:NT)

**林竹次郎**(古溪) 明治32教育, 大正7講師号 明治8—昭和22 歌人, 漢詩人, 国漢文学者。わがうた千首(丙午出版社, 昭和3, 911.168:HT) 万葉集外来文学考(丙午出版社, 昭和7, 911.12:HT) 平仄字典(明治書院, 昭和10, 921.03:HT) 懐風藻新注(明治書院, 昭和13, 919.2:HT) [共編] 作詩関門(丙午出版社, 大正3, 919.07:OS) ふるさと(古溪歌会, 昭和3, 911.56:HT-2) 作詩関門・増補(丙午出版社, 昭和3, 919.07:OS:2)



# 図書館 あ・ら・かると

## ★1986年度の統計から★

図書館の現況の一端をご紹介します。

表 1 館外貸出総冊数

白 山	42,540	朝 霞	13,408	工学部	17,519
-----	--------	-----	--------	-----	--------

3館合計すると73,467冊。2万人余の学生が在籍することを考えるとけっして多いとは言えないでしょう。

表 2 蔵書冊数 (62.3.31 現在)

	和 書	洋 書	計
白 山	338,085	151,952	490,037
朝 霞	75,480	8,533	84,013
工 学 部	64,043	42,302	106,345
計	477,608	202,787	680,395

表 3 61年度増加図書数

	和 書	洋 書	計
白 山	11,138	4,609	15,747
朝 霞	8,042	943	8,985
工 学 部	2,843	1,637	4,480
計	22,023	7,189	29,212

蔵書は利用されなければ、場所をふさぐ巨大な紙のかたまり。蔵書数は年々増加しています。

表 4 所蔵雑誌タイトル数

白 山	7,131	朝 霞	910	工学部	3,629
-----	-------	-----	-----	-----	-------

本だけではなく、雑誌も重要な資料です。

表 5 紛失冊数

白山	879	朝霞	*	工学部	487	計	1,366
----	-----	----	---	-----	-----	---	-------

(注\* 新館移転のため未調査)

図書資料等の充実に努めておりますが、残念なことに紛失する本も少なくありません。

利用者の皆様が図書館を一層活用されることを望みます。

## 創立 100 周年記念日本文学資料展

表紙でもご案内したとおり、この機会にぜひ足をお運び下さい。

内容 ○絵本と奈良絵本 ○百人一首と異種百人一首 ○膝栗毛と明治の膝栗毛 ○井上円了関係

日時 9月21日(月)～9月26日(土)

会場 丸善日本橋店 4階 入場無料

## ★工学部新分館長紹介★

今年4月から、工学部分館長に笠原英志工学部教授が就任しました。

(略歴)

昭和46年4月から東洋大学工学部助教授となり、昭和56年9月教授。昭和60年4月に工学部長補佐となり2年間活躍した。

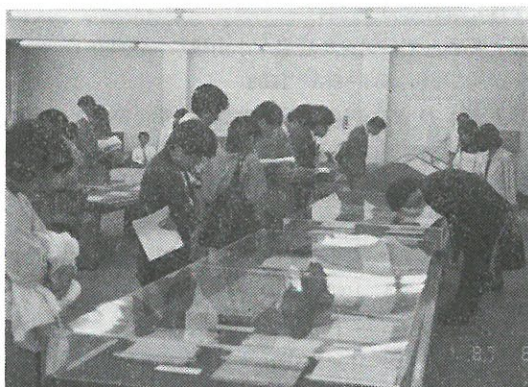
専攻は、機械工学における「切削の研究」であり、昭和48年5月科学技術庁注目発明賞を受賞し、昭和56年9月「振動送り切削法の研究」によって工学博士(東京大学)となる。

## ★白山だより★

### 貴重書展示される

さる6月20日、和歌文学会例会の本学開催にもない国文学科の主催で和歌文学等の貴重書70点(図書館所蔵)の展示をおこないました。

同時に配布した目録もあわせて好評でした。



体系的に展示された貴重書をくいいるように見る見学者

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN **ΚΟΣΜΟΣ**

1987 夏 (No. 78) 1987年7月7日発行 編集:コスモス編集委員会 発行人: 剣持通夫 発行所: 東洋大学附属図書館 〒112 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel. 03 (945) 7314 ©東洋大学附属図書館 1987